

日本標準商品分類番号	87 1244
承認番号	22000AMX00806
薬価収載	1978年4月
販売開始	2002年9月
再評価結果	1986年12月

補正用電解質液
日本薬局方 硫酸マグネシウム注射液
硫酸Mg補正液 1 mEq/mL

貯法：室温保存

使用期限：容器に表示の使用期限内に使用すること。

使用時及び保管：取扱い上の注意の項参照

※※注) 注意－医師等の処方箋により使用すること

Magnesium Sulfate Corrective Injection 1 mEq/mL

【組成・性状】

1. 組成

本剤は1管(20mL)中に硫酸マグネシウム水和物(MgSO₄・7H₂O) 2.46g (0.5mol/L)を含有する。

〈電解質組成〉 Mg²⁺ 20mEq/20mL
SO₄²⁻ 20mEq/20mL

2. 製剤の性状

本剤は無色澄明の注射液である。

pH (5%濃度に希釈して測定) 約5.8 (製造直後の平均実測値)
5.5~7.0 (規格値)

浸透圧比 約2 (生理食塩液に対する比)

【効能・効果】

電解質補液の電解質補正

【用法・用量】

電解質補液の電解質の補正用として、体内の水分、電解質の不足に応じて電解質補液に添加して用いる。

- (3) 投与前：①投与に際しては、感染に対する配慮をすること(患者の皮膚や器具消毒)。
②開封後直ちに使用し、残液は決して使用しないこと。

7. その他の注意

本剤での報告と同様に、硫酸マグネシウム製剤を妊婦に長期投与した際に、胎児、新生児に一過性と思われる骨の異常所見(上腕骨近位側骨幹端に放射線透過性の横断像や皮質の菲薄化など)が認められたとの報告がある⁶⁻¹¹⁾。

【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：硫酸マグネシウム水和物 (Magnesium Sulfate Hydrate)

分子式：MgSO₄・7H₂O

分子量：246.47

性状：無色又は白色の結晶で、味は苦く、清涼味及び塩味がある。水に極めて溶けやすく、エタノール(95)にほとんど溶けない。希塩酸に溶ける。

【取扱い上の注意】

包装内に水滴が認められるものや内容液が着色又は混濁しているものは使用しないこと。

【包装】

硫酸Mg補正液1mEq/mL

20mL 10管、50管 プラスチックアンプル入り

※【主要文献及び文献請求先】

主要文献

- 1) 岩崎竜彦, 他: 栃木産婦医報 1997; **24**(2): 94-96
- 2) 小柴寿人, 他: 産科と婦人科 1997; **64**(7): 1034-1039
- 3) Rantonen, T., et al.: Acta Paediatr. 2001; **90**: 278-281
- 4) Schanler, R. J., et al.: Gynecol. Obstet. Invest. 1997; **43**: 236-241
- 5) 大嶋義之, 他: 中部日本整形外科災害外科学会雑誌 1997; **40**(4): 1024
- 6) Lamm, C.I., et al.: J. Pediatr. 1988; **113**: 1078-1082
- 7) Cumming, W.A., et al.: AJR. 1989; **152**: 1071-1072
- 8) Holcomb, W.L., et al.: Obstet. Gynecol. 1991; **78**: 611-614
- 9) Edwards, D.K.: AJR. 1993; **161**: 141-145
- 10) Santi, M.D., et al.: J. Pediatr. Orthop. 1994; **14**: 249-253
- 11) Matsuda, Y., et al.: Gynecol. Obstet. Invest. 1997; **44**: 82-88

文献請求先

株式会社大塚製薬工場 輸液DIセンター
〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-2
TEL: 0120-719-814
FAX: 03-5296-8400

※※【使用上の注意】

1. 重要な基本的注意

本剤は電解質の補正用製剤であるため、必ず希釈して使用すること。

2. 相互作用

併用注意 (併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
リトドリン塩酸塩	CK (CPK) 上昇があらわれることがある ^{1,2)} 。	機序は不明 切迫早産のある患者

3. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。
副作用が認められた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

種類/頻度	頻度不明
消化器	悪心
投与部位	血管痛
その他	潮紅、ほてり、熱感

4. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので、投与速度を緩徐にし、減量するなど注意すること。

5. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

- (1) マグネシウムイオンは容易に胎盤を通過するため、新生児に高マグネシウム血症を起こすことがある³⁻⁵⁾。
- (2) 妊婦に長期投与した際に、胎児、新生児に一過性の骨化障害があらわれることがある^{4,5)}。

6. 適用上の注意

- (1) 調製方法：本剤は使用に際して、よく混合されるよう注意すること。
- (2) 調製時：リン酸イオンと沈殿を生じることがあるので、リン酸塩を含有する製剤と配合する場合は注意すること。